



「東京理科大学・小布施町 まちづくり研究所」との連携

栗ガ丘小学校

栗ガ丘小学校の三年生(百二十二人)は、総合的な学習の時間「のびゆく」で社会科との横断的な学習内容として、地域をめぐる「ウオーケラリー」に年四回取り組んでいます。また、「東京理科大学・小布施町 まちづくり研究所」と連携して、小布施の良さに気づく、良さを生かす、良さを残す「まちづくり次世代ワークショップ」にも参加しています。(平成二十五年度で八回目となりました。)

第一回のウオーケラリーは六月七日に行いました。子ども達を二十四班に分け、その班で、交番、商工会、まちとしよテラソ、小布施駅、役場、消防署、高井鴻山記念館、おふせミュージアム・中島千波館の九カ所を回りました。事前に「自分のお気に入り場所の場所紹介」や「知っていること調べ」をして臨み、友だちと協力しながら各ポイントでスタ

ンプを押し、問題を解きました。「高井鴻山記念館は、忍者屋敷みたいで抜け穴があったよ。」「小布施のマークが分かったよ。」「千波さんの桜の絵がきれいだったよ。」等々。町の素敵なところをたくさん見つけました。第二回目は全員で都住方面(梅松寺、岩松院やフローラルガーデンなど)にでかけました。

今年度の東京理科大学とのワークショップでは、「何気なく過ごしている身近な『場所』の再発見」がテーマ。一人一人が気持ちよ寄せている場所や風景などを



地図の上に載せて、どんな思いを寄せているか発表しあいました。この学習が未来の小布施を創る子ども達を育むことを願っています。(宮坂ゆかり)

第219号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 後藤昭彦
編集人 会報編集委員長 長川まゆみ
印刷所 須坂新聞社

相森スマイルプロジェクト

相森中学校

相森中学校では毎年ボランティア活動に力を入れている。活動の一つとしてランドセルギフトというジョイセフの活動に参加し、生徒や地域の方々から寄付していただいたランドセルをアフガニスタンに贈っている。この活動は今年で五年目を迎えるが、課題もある。それはアフガニスタンへのランドセルの送料が一個につき千八百円かかるということである。仮にランドセルを百個集めたとしても送料は全部で十八万円。送料は募金で集めているが、中学生だけでこの額を集めることは容易ではない。過去には二百個を超えるランドセルを集めたときもあったが、今年度は数にこだわらず、「生徒の力でできる活動」また、「全校生徒が参加できる活動」に重点を置いて取り組むことにした。そこで生徒会役員で考えたのが「相森スマイルプロジェクト」通称OSP。OSPでは一委員会一ボランティアを掲げ、全校生徒が取り組



める活動を委員会ごとに企画した。ランドセルギフトはその活動の一つとして行った。また、募金だけでは賄いきれない送料は、書き損じハガキや古新聞、アルミ缶、牛乳パックなどを回収することで補うことを考え、いくつかの委員会が分担した。回収の結果、集まったランドセルは七十三个。古新聞やアルミ缶も少しづつ集まり、昇降口は資源物で溢れていた。ランドセルに入れる文房具もたくさん集まった。結果的にランドセルの送料を募金や資源回収だけでは賄いきれず、PTAに補助していただいたが、生徒が自分たちの力でやれる範囲の活動はできた。OSPの期間中、昇降口は活気と笑顔で溢れていた。重たい新聞紙や嵩張るアルミ缶を家から持ってきてくれる生徒、普段はぶっきらぼうな生徒が制服のポケットから小銭を出して募金してくる姿、それらを見ているだけでうれしかった。相森スマイルプロジェクトは笑顔で地域や世界へ広げる活動。でも一番笑顔になっていたのは活動に取り組んだ生徒たちだ。(清水 和)

教育会だより

- 7・30 教育会夏期講演会
○講師 福島大学教授白石豊先生
○演題 「対話を重視したスポーツ指導」
- 31・8・2 同好会夏期講座
- 8・26 教研中間連絡会
- 28 第四回理事会
- 29 研究推進委員会③
- 9・2 教育七団体代表者会
- 6 同好会⑤
- 19 教研学校代表者会(レポート交換日)
- 20 臨時研究委員長会
- 10・2 第五回理事会
- 3 研究推進委員会⑤
- 5 第60回上高井教育研究集会
- 15 同好会⑥
- 19・20 郡市科学作品展(シルキョール)
- 21 教育会会計中間監査会
- 30 第六回理事会
- 31 研究推進委員会⑤
- 11・8 教研推進委員会
- 14 研究推進委員会⑥
- 15 研究委員会公開研究会
中心講師 伏木久始先生
◎国語(小布施中)、社会(小布施中)
算数(小布施中、理科(森上小)
生活科(総合小山小、図工(美術(日野小)
体育(保健体育(栗ガ丘小)、家庭技術(家庭(相森中)
外国語(活動英語(東中)、道徳(特別活動(高甫小)
特別支援(教育(墨坂中)、健康(教育(豊洲小)
人権(同和教育(高山中)
- 16 信州「教育の日」飯田大会(飯田中・藤原文館
『ともに学びともに育つ環境づくりをめざして』
- 28 学校代表者会⑤
- 12・2 教研学校代表者会③
- 6 上高井教育会報第二十九号発行
- 14 同好会⑧
- 17 研究推進委員会⑦
- 19 研究委員長会③

親子で学ぶ情報教育

仁礼小学校

現在、携帯電話やスマホ等に関わって、トラブルや犯罪が起り、社会的な問題になっていきます。そのため、学校だけではなく、保護者・地域と連携し情報教育を進めていく必要があります。

そこで、十月の参観日に、六年の児童・保護者対象の学習を行いました。講師には、須坂市技術情報センター所長小林晃さんをお招きしました。

ネットの利便性や良さと危険性を説明していただき、実際に起こった事案をクイズ形式で子どもに考えさせたり、フィッシングの実際を解説したりしていただきました。

子どもたちは、ネット上の危険からどのように自分を守ったらいいかを考え合いました。また、保護者には、家庭での指導

と防止対策をどのように行いけばよいかを話していただきました。

子どもからは、「ネットは便利でいいものだと思います。でも、気が



をつけていたけれど、これからも、気をつけていきたいです」

「『ネットで知り合った人には会わない』『名前を聞かれても簡単に教えない』など、自分

の身は自分で守っていきたくです。これからも、ネットは利用すると思うので、今回の学習はとても役に立ちました。」という感想がありました。

保護者の方からも「ゲーム機や音楽プレーヤーでもネットにつながることを初めて知りました。子どもの方が知っていたので、親として防止対応を考え、フィルタリングを行っていかなければいけないと思いました。」

「子どもと一緒に話を聞くことができ、共通の話題として、今後の使い方を考えるよい機会になりました。」という感想がありました。

このように、情報教育に関わって、子どもだけでなく、親子がともに学習することは、家庭での情報機器の使い方、情報モラルや、保護者としてどう指導していくか等を考えるよい機会になりました。

(西原秀明)

アルクマとダンス

須坂小学校

運動会で「アルクマダンス

(信濃の国ダンスバージョン)を踊ることにになり、ダンスの振り付けをされた塚田まゆり先生と観光ピーアールキャラクターのアルクマが一年生のためにスペシャルレッスンをしてくださることにになりました。

アルクマと塚田先生には、第一回目ダンスの練習に来て頂きました。塚田先生と準備運動をされていると、アルクマがやってきました。子ども達は突然登場

を上げて飛びついていました。その後はアルクマと塚田先生と一緒に何回も練習しました。

頭の上に手で大きく三角を作って信州の山を表したり、流れる千曲川の様子を体全体の動きで表したりと、「アルクマ

ダンス」は歌詞に合ったわかりやすい振り付けです。子ども達は楽しくダンスしながら、あっという間にダンスの振り付けと「信濃の国」の歌を覚えてしまいました。



りになりながら練習を頑張りました。そして、運動会本番は、一年生らしい元気いっぱいのダンスを披露するこゝとができました。運動会が終わった今でも、子ども達は「信濃の国」を口ずさんだり、ダンスを踊ったりしています。思い出さばいいの、小学校での初めての運動会でした。

本校の中核活動

地域と学校をつなぐ

高山小学校

学校と地域との信頼関係を揺るがすような出来事が目につく昨今であるが、高山小学校では地域に支えられながら教育活動を日々行うことができている。その要因の一つが『わくわく村』の活動にある。

『わくわく村』は、村・PTA・学校が一体となって運営し、子どもや保護者、地域の方が共に参加する活動である。毎年、25〜30程度の講座を設定し、親子で参加する。豊かな自然の中で古道を歩く講座、そばを種から育ててそば打ちをする講座など様々である。講師は、村在住のその道一流の方々をお招きしている。

私は、今年ホタルの講座に参加したが、夜ホタルの乱舞する様子を見ることができた。また、夏休みにはホタルの生息する川の清掃作業をした。初めてホタルを見たという子どもも多く、積極

的に清掃作業をしていた。指導していただいたのは、高山村のホタルの会の方々だった。ホタルの会の方々も大勢集まり、参加した親子にザリガニを捕っていただいたり、生き物についていろいろ説明していただけたりと、とても楽しいひとときを過ごすことができた。



『わくわく村』の活動は地域の方々の学校への理解を高め、信頼関係醸成に役立っている。学校としては、地域学習で講師をお願いするなどの際に快く引き受けてもらえるつながりができていて、大変にありがたい。また、安全面でも子どもたちの地域での生活を見守っていただいている。地域の学校として信頼関係を高めている『わくわく村』の活動を、これからも大切にしていきたい。

(田鍋隆行)

したアルクマに大喜びで、歓声

残暑の九月、毎日汗びっしょ

(早野愛里)

各校の教育活動特集

「本気の職場体験 …体験型から実習型へ…」

東 中 学 校

東中学校二学年では、進路学習の一環として、職場体験学習を実施しています。将来の自分の進路を切り開くためには、自己理解を深め、他者と共に生きる手立てを考え、実際に職業の世界を自ら体験し学ぶことが大切です。そこから働く意義・目的を学び、自己の将来の進路に関する考えを深めることを目的としています。また、今年度は、この体験学習をただの体験に終わらせないために、夏と



秋の二回計三日間の体験に変更し、自己を振り返る期間を設け、更なる課題と目的をもって再度挑戦する形態に変更し実施しました。

市内を中心に小布施町から長野市の事業所での職場体験や地域の方からの職場でのマナー演習などを通して、地域の方々から働くことの意義や社会人としてのマナーなどを直接指導いただきました。生徒自身もクラスや学年で何度も話し合

い考えた課題や目標を職場体験の中で実践することにより、課題の修正や再設定という、より深い学習にすることができました。今後

日本一美しい学校を目指して

高 山 中 学 校

今まで高山中学校は伝統的に清掃を大切にし、きれいな校舎を守ってきました。「自ら学び高めゆく」という学校目標を掲げ、重点活動の一つに「無言、気づきの清掃」があります。高山村は「日本で最も美しい村連合」に加盟し、今年是全国大会が開催されました。中学生にも協力できる活動として生徒会が中心となり、「日本一美しい学校」を目指し教室や廊下で床磨きが始まりました。通常の



清掃をした上での取組です。ある生徒の生活記録には、

「ここ最近ビックリしたことを書きたいと思います。それは、掃除が楽しいと感

じたことです。床を磨くと白くなっていき、もっとやりたい!!と感ずるようになり、掃除の時間が楽しみになりました。まだ白くなったところが少ないので、どんどんきれいにしていきたいです。」掃除に一生懸命取り組むことで、達成感や充実感が得られることを学んだということが書かれていました。今年七月には長野県中学校清掃サミットが高山中学校を会場にして行われ、多くの学校の取組に刺激を受け、活動もさらに力が入っています。

(松村 勉)

本校の宝 63 小山小学校

「小山のシンボル」



「栃の木のように、深く根を張り、幹太く、枝葉豊かな人」学校目標にも掲げられており、本校の宝の筆頭は、校庭の栃の木です。明治十四年、旧校門近くに植樹されて以来、百三十年以上、本校児童を見守ってきました。ゆったりと枝を広げ、雄大で美しいその樹形は、本校にとってまさにシンボルであり、地域にとっての宝とも言えます。

春にはきれいな芽吹きで生命の躍動を感じさせてくれ、夏には大きな木陰で子どもたちを包み込んでくれます。秋には多くの実をつけ、栃の実集めの子どもたちを夢中にさせます。晩秋の朝には、真っ赤に紅葉した葉を校庭の芝生の上に落とし、緑と赤の名画のような光景を作り出します。



冒頭の学校目標では、一番最初に根、次に幹、最後に枝葉を謳っています。これは人が成長していく上で経ていかねばならない順序を訴えかけているような気がしてなりません。人目にはつかないけれど、まずは深く根を張り、それから幹を太くし、その上で枝葉を広げていく。小学校の六年間で、子どもたちに深い根を張らせてあげなければいけない、いや、自分自身こそ深い根を張る努力をしていかなければいけない。そんな思いで、毎日栃の木を見上げています。

(梅本裕之)

火ばら 談義

音楽談義

楠 千恵子

お盆前、友達が久しぶりに我が家に泊まりに来た。

彼女は、これまで吹奏楽コンクールの全国大会で何回も指揮を振っている。今年も東海大会まであと一週間というときだった。

「練習しなくていいの？ K中はお盆合宿だっていうよ。」

「お盆はみんな休まなきゃ。」

「本番のホールで練習は？」

「もうA県がとってるって。地区の時もなかったし。」

「楽器は個人持ち？ M市並に予算がたくさん付くの？」

「ほとんど学校備品。昭和の楽器もたくさん。アルトサクソとフルートの一人ずつが個人持ちくらい。」

「曲によってはハーブとかレンタルするの？」

「基本的に学校にある楽器でできる選曲を音楽出版の人と相談して決めてるよ。」

それを聞いて、私と中学校で吹奏楽部に入っている娘はとて

も驚いた。

県代表として東海大会に出場する中学校の吹奏楽部であれば、某TVの吹奏楽部特集にあるように、朝早くから夜遅くまで、休日返上で練習しているのだとばかり思っていたのに、イメージと全く違っていたのだから。

「私ね、一回コンクールでやった曲はやらないんだ。」

彼女が言った。私も担任した子ども達のために毎年、合奏曲を編曲して音楽会で発表させてもらっている。原曲を聴くと教え子達との思い出がよみがえってくる。彼女もそうなのか聞いてみた。

「どうして？ S中の先生は自由曲、前任校で全国行った時と同じ曲だよ。」

「私はダメ。前の生徒との演奏がどこかに残っていて。それが



に今は、日本人作曲家の新しい作品に取り組みたい。歴

史的事実をモチーフにした素敵な曲がたくさんあるんだよ。音楽だけじゃなくて、作曲家や時代背景やそこにいた人のことを生徒と一緒に調べて考えるのが楽しいんだよ。」

同じ大学で学んだ彼女は、音楽の道を究めている。現状に留まらず、常に前を向いて生徒達と向き合っていることが伝わってきた。私も頑張ろうと改めて思った。
(井上小)

おかげさま

森山 裕士

我が家には八歳になる柴犬と五歳になるチワワがいる。

いずれも娘(当時小学生)に「絶対世話をするからどうしても飼って！」とせがまれて飼い始めたものである。とは言うものの、いつの間にか散歩に連れて行くのは私の仕事になっていた。朝と晩、三〇分ほど、二匹の犬を引き連れて近くの道を廻ってくる。朝は早起きをし、すがすがしい空気の中、気持ちよく散歩できることが多いが、一日の仕事が終わってからの夜の散歩は、結構きついものがある。家に帰ってくるのとドッと疲れが出てきて、夕食を食べるともう眠くなってしまう、ちょっと横になってみるとそのうちにうたた寝、気がついたら十一時、なんてことがしょっちゅうある。疲れて眠たい体にムチ打って、それから散歩に出かけるので、深夜の犬の散歩である。よくしたもので、いくら遅くなくても我が家の犬たちは「遅いぞ！」な

どと文句も言わず、散歩に連れて行ってもらうのをけなげに待っているのである。

振り返ってみると、私はここ八年間ほど、風邪を引いて寝込んだことがない。以前は年に一度は風邪やインフルエンザにもなったりして、仕事を休むことがあったが、このころは、風邪っぽいなあと思っても薬を飲んで一晩寝ると、次の日は平気になっていく。そうしたことの原因は、と考えると、思い当たるのは、犬を飼い始めてから、犬の散歩をするようになってから、という結論に達している。毎日、朝晩の三〇分ずつの散歩、ウォーキングが、自分の健康に確実に役立っているんだろうなあと感じている。「絶対世話をするから」と言った娘が散歩をせずに、自分にその仕事が終わってきたおかげで、今の自分の健康が保たれている。おかしな話であるが、まさに「おかげさま」である。

散歩の途中、時々近所の人に会い、「毎日たいへんだねえ。」と声をかけられる。「でもおかげでいい運動になってます。」と答えている。今日もまた、疲れて眠たい体にムチ打って、二匹の犬と一緒に、夜の臥竜公園あたりを歩いているのだろうか。
(須坂支援学校)

編集後記

猛暑の中でスタートした二期も、美しい紅葉の時期を経て、いよいよまとめとなりました。各校とも、当初に計画した行事が滞りなく行われたことと思います。子どもたちの成長が認められ、一つ一つの活動から十分に充実感を得られたのではないのでしょうか。

さて、ここに上高井教育会報第二一九号をお届けすることができました。各校で行われた工夫いっぱい、教育活動や先生方の思い・実践の記録等がぎゅぎゅと詰まったものとなりました。一行一行、一文一文より各校・先生方の熱意を感じ取っていただけたら幸いです。

お忙しい中、玉稿をお寄せいただきました先生方、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

お体に気をつけて、よいお年をお迎えください。
(山崎)



カット 仁礼小 安藤庄一